

7 随筆 自分の考えをもつ

組			
番号			
氏名			

次の文章を読んで問いに答えなさい。

私は中学を卒業するとすぐ、遠洋のマグロ船に乗りました。いわゆる見習いです。遠洋漁業ですから一航海が一年を超えることもあります。家に帰れるのは盆か正月ぐらいでした。何もない田舎でしたが、正月に行われる「獅子風流地区回り」が幼い頃から楽しみでした。これは、大人たちが太鼓や笛を鳴らし、獅子舞いをしながら浜の家を一軒一軒回る伝統行事です。この時ばかりは、子どもたちも夜通し起きていてよく、近所の家が上がってはジュースやお菓子をもらう。これがないとお正月が来ないような気がしたものです。

二十歳ぐらいの時のことです。正月に帰省したのですが、今年から地区回りをしないことになったと聞いて、大変 **A** しました。大人たちが寄り合いでそう決めたことでした。ふるさとの楽しい思い出がなくなってしまう、こんなことってあるのだろうか、これでいいのだろうか。その年のお正月は、それはもう、寂しいものでした。

仕事先にもどってからも、そのことは頭から離れませんでした。私はここでこんなことをしていいのだろうか。自分が感じたあの楽しいふるさとの思い出、伝統をとぎれさせてもいいのか。そう思い始めるといてもたってもいられず、船を降り、**B** 地元に戻ることにしたのです。家業の養殖業を継いだのですが、仲間を集めて、保存会をつくり「獅子風流」の復活を働きかけました。もともとは、私のように十代の若者がふるさとを離れ、獅子や笛や太鼓の人手が足りなくなったことが、休止の原因でしたから責任を感じたわけです。

こうして、数人の保存会のメンバーとそれから十何年間が続けました。

しかし、五人や六人で保存しようと思っても、後に続くものがいなければ、**C** また同じことになってしまふ。そう考えた私は、地元の中学校に働きかけ、中学生による伝統芸能「獅子風流」を始めたのです。幸いにも、中学校の先生方や、地元の皆さんからの協力に支えられ、順調に活動が行われるようになりました。翌年には、地元の小学校でも「獅子風流」がスタートしました。小学校での活動が始まったのは、平成元年のことです。

今では、小学校や、中学校で「獅子風流」を学んだ子どもたちが、地元の各浜で正月に行われる獅子風流に参加して、獅子の中に入って大人顔負けの舞いを披露したり、すばらしい笛の音色や、バチさばきを見せてくれるようになりました。数年前からは、石巻市のかき祭りや、小学生が「獅子風流」を披露していますし、牡蛎剥き作業が始まると、各浜を回って大人たちを励ましています。

D 伝統文化を継承していくことは、口で言うほど楽なものではありません。大人が忍耐強く、子どもたちに教えていかなければ、あつというまにすたれてしまうと思いません。

1 文章中の A に当てはまる最も適切な言葉を、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア うきうき イ しよんぼり
ウ がっかり エ びくびく
「 」

2 文章中に「B 地元に戻ることにしたのです」とありますが、
① 筆者は、なぜそうしたのか。その考えが分かる部分を抜き出なさい。

② また、地元に戻って何をしましたか。三十字程度で書きなさい。

3 文章中の「C また同じことになってしまう」とありますが、「同じこと」とはどんなことですか。二十字から三十字で書きなさい。

4 ① 「D 伝統文化を継承していくということ」について、筆者はなにが必ずやだとして述べていますか。文章中の表現を用いて二十字程度で書きなさい。

② また、筆者の考えについて、あなたが感じたことを簡潔に書きなさい。